

# ネイチャーゲーム活動がきっかけとなって

## キンランの保護活動が始まった

服部道夫

キーワード 里山保全 公園利用 市民活動 希少植物の再生

### はじめに

稲城市中央公園内の雑木林を手入れした場所から、希少植物の「キンラン」が再生した。花が咲き始めた直後から公園利用者によってキンランの盗掘が始まったため、キンランの保護活動を開始した。今後、キンランの保護活動を進めるにあたって、シェアリングネイチャー活動との関連づけを行ってみた。

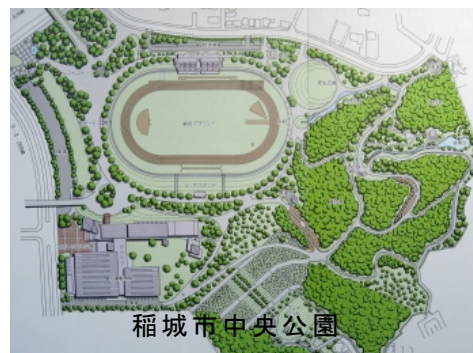
### 1. 中央公園の現状

稲城市の中央公園は、1991年、稲城市の基幹公園として開園した。多摩ニュータウン地区の丘陵地を開発して作られた総合公園で、雑木林を含む緑地エリアの面積は、15ヘクタールの広さがあり、ランニングロードと遊歩道が整備されている。

公園と施設の管理者として、くうるおいのある緑のまちづくりを推進し、市民の健康増進に寄与すること>を目的に(財)グリーンウェルネス財団が設立され、現在、この財団が稲城市の指定管理者になって管理を行っている。

緑地エリアの利用者は、ウォーキングをする人、お年寄りの夫婦や家族連れの散歩者、犬を連れた散歩者などが中心となっている。

2003年ころから、雑木林の景観をよくし、より安全で安心できる公園をめざして、雑木林の隅々にわたって、間伐と下草刈りが行われるようになった。



### 2. キンランの再生と保護活動に至った経過

#### 1) 中央公園では自然の遊びを中心とした行事が行われていた

グリーンウェルネス財団は、2001年から、緑と親しみながら健康を増進することをねらいとして、親子を対象にした自然観察・自然を使った遊び・木の枝を使ったクラフト作り・間伐作業の手伝いなどの主催事業を行ってきた。

2001年12月	ネイチャーゲームで遊ぶ、絵本の朗読	親子約20名参加
2002年12月	ネイチャーゲームで遊ぶ、どんぐり笛作り	親子約20名参加
2004年1月	ネイチャーゲームで遊ぶ、ツリーハウス作り、落ち葉で焼き芋	親子23名参加
2005年3月	ネイチャーゲームで遊ぶ、雑木林の手入れ、クラフト作り	親子15名参加
2006年3月	ネイチャーゲームで遊ぶ、雑木林の手入れ、クラフト作	親子21名参加

2007年5月 キンラン、ギンランの保護活動を行った

親子5名参加  
及びウェルネス財団から職員3名の参加

## 2)キンランが突然再生した

2003年頃から、雑木林に手入れが行われるようになり、2005年に、手入れした場所から突然キンランが再生した。

アズマネザサなどの植物の間で、細々と生きていたキンランが、林の手入れによって日当たりがよくなったため再生したものと思われる。2005年の時点で、キンラン約40株、ギンラン約4株が確認できた。

## 3)キンランの盗掘から守るための保護活動を開始した

キンランが再生して花が咲き始めた直後から、キンランが盗掘されるようになった。

2005年、まず個人でキンランの保護活動を始めた。約30株のキンランと3株のギンランの株の根元に、保護を表示したタグを取り付け、3本の竹で囲いを行った。

2006年、公園の主催行事に参加してくれた10家族に、キンラン保護の呼びかけたところ、2家族5名(大人3名、小学生2名)が参加してくれた。キンラン約60株、ギンラン約4株に保護のタグを取り付け、竹で囲いをした。子どもを含めた参加者は、熱心に作業に取り組んでくれた。

2007年、親子5名(大人4名、小学生1名)及びウェルネス財団から職員3名が参加して、竹の杭とひもで、キンラン、ギンランが自生しているエリアを取り囲んだ。キンランが約10株、ギンラン約30株が確認できた。

3年間の保護活動によって、キンランの株数が飛躍的に増えた。

保護活動に参加してくれた家族の参加動機は、「キンランを保護することが大切だと思ったから」という回答であった。

また、グリーンウェルネス財団に、雑木林の中にキンランを観察する遊歩道を作ることの必要性を訴え、2008年3月に遊歩道が完成した。

2008年5月3日には、キンランの観察会を開く予定である。



キンラン観察ための遊歩道ができた

## 3. キンランが再生した価値を考える

キンラン(ラン科キンラン属の多年草)は、丘陵の日当たりのいい林の中に生え、関東地

方では5月の初旬から中旬にかけて黄色の花をつける。

キンランを人工的に栽培することはきわめて難しいといわれている。その理由として、根に固有の菌根をつくって、その菌から栄養を得ていることがあげられる。従って、盗掘して自分の庭や鉢に移植しても、やがて枯れてしまうことになる。

1960年代に、多摩ニュータウンの住宅開発事業が始まり、多摩丘陵からキンランが見られなくなった。雑木林の宅地化、雑木林の放置、盗掘などから、全国的にキンランは減少し、1997年の環境庁レッドリストには、絶滅の危険が増大している種(絶滅危惧Ⅱ類)に掲載された。

キンランが生育する価値として、次のようなことがあげられる。

- ①希少価値----絶滅が危惧される希少植物としての価値
- ②心理的な価値---花が咲いている姿を見て人々に安らぎを与えてくれる価値
- ③文化的価値---雑木林と人々との営みから種が持続してきた価値
- ④固有の価値-中央公園にもともと生えていたキンランそのものの価値

キンランは、このようにさまざまな価値があるだけでなく、キンランを教材にして、雑木林の保全活動や生物の多様性について学んだり、体験的に環境を学ぶことができるので、貴重な学習資源としての価値も考えられる。

## 4. キンランの持続に向けた今後の実践活動

### 1) キンランの価値を地域の人たちに伝えていく

今後キンランを継続的に保護していくためには、キンランが観察できる遊歩道を利用して、観察会などを開き、キンランの価値を伝えたり、キンランの花をみんなで楽しむことの大切さを地域の人たちに伝えていく。

### 2) 制度として保護していく

キンランを持続させるためには、制度として保護していくことも必要である。現在、「稲城市緑の基本計画」を見直す時期にきているので、希少植物の保護や里山の復元が盛り込まれるよう提案していく。

また、「稲城市緑の基本計画」を受けて公園の管理が行われるので、管理業務の中に希少植物の保護や里山の復元が盛り込まれるよう働きかける。

### 3) 次の世代に伝えていく

キンランの保護活動を次の世代に引き継いでいくために、自然体験活動や環境学習を推進していく必要がある。そのためには、仲間の募って活動の輪を広げていく。



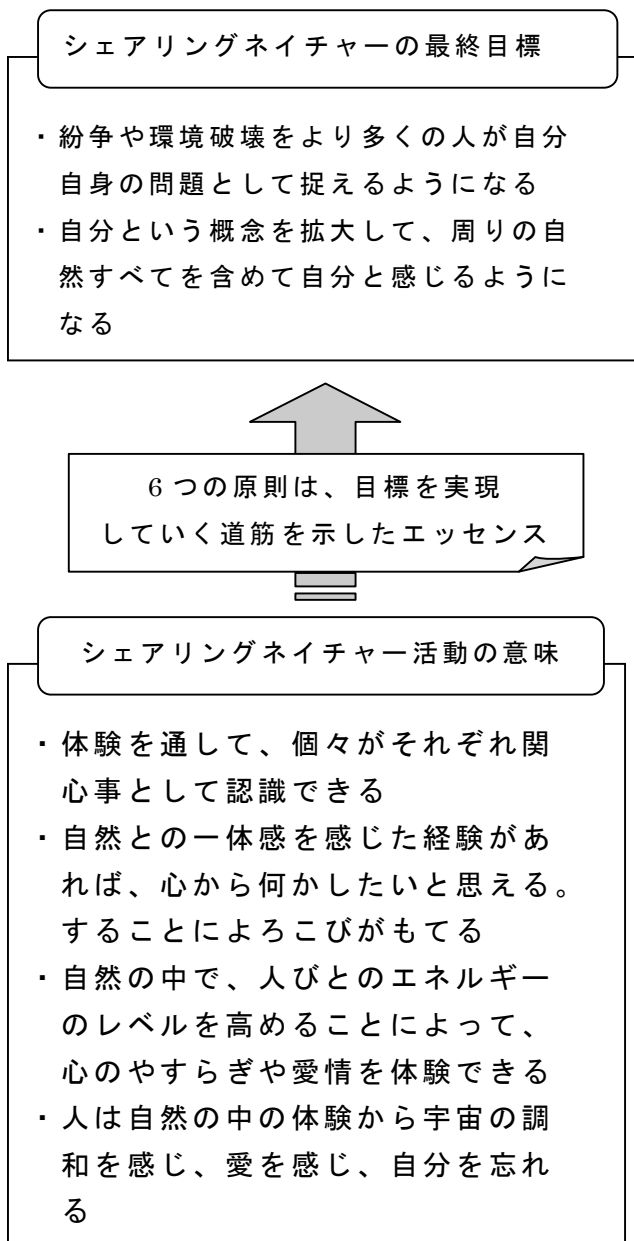
## 5. シェアリングネイチャー活動との関連づけ

今回、キンランの保護に参加してくれた人たちは、毎回の行事に参加してくれた人たちである。ネイチャーゲームを楽しんだり、木の枝を使ってクラフトを作ったり、間伐作業を楽しんだ。こうした体験を通して雑木林に愛着を感じ、キンランを守ろうという自発的な行為に結びついたといえる。

日本協会発行の会報「ネイチャーゲームの森」(2008年3月号)の特集「シェアリングネイチャーが目指すもの」では、コーネル氏へのインタビューによって、シェアリングネイチャーの最終目標やシェアリングネイチャーのねらいが言葉で表現され、6つの原則との関係についても明らかになった。この記事の内容を図解してみると下図のように表すことができる。今回のキンランの保護活動をシェアリングネイチャー活動と関係づけてみた。

もし、このキンラン保護活動が、シェアリングネイチャー活動が目指す一つの事例といえるとしたら、自然と共生する持続可能な地域社会づくりに向けた実践の一つの事例といえるのではないだろうか。そして、わたしたち指導員は、ネイチャーゲームを指導するだけでなく、地域社会の問題に目を向け、理想を目指して実践していく市民としての役割を担っているといえるのではないだろうか。

〈シェアリングネイチャーが目指すもの〉



〈キンラン保護活動の経緯〉

